

(宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌)

敬って阿弥陀如来の御前に申してもうさく

本日ここに恭しく尊前を荘厳して宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を厳修し奉る

それ、おもんみれば、今を去ること八百有余年の昔、親鸞聖人は京都洛南日野の里にご誕生なされ、御年わずか九歳にして天台の門に入り、二十年の研鑽を終えて、御年二十九歳、六角堂百日の参籠によって示現を得、吉水の法然上人を訪ね、重ねて百箇日の教えを求め、ついに本願他力の妙理をきわめ給う寒風吹きすさぶ北海の浜辺に念佛の教えを説きては、苦難の星霜を重ね、草深き関東の山野に如来の本願を広めては慈愛の歳月を閲し給えり

晩年には数多くの聖教の執筆に心を砕き、終に念佛の息絶えて往生浄土の素懐をとげ給う時にこれ弘長二年仲冬下旬第八日、頽齡は九旬に満ち給いき。

爾来、ここに七百五十有余年、伝統の法灯は末の世の闇を照らして、念佛の声、海内にあまねし

時に釈尼妙真、これからは、この寺に縁を結ばれた御同朋の皆様と共に、宗祖親鸞聖人によって広開された真宗の精神を学び、如来の本願にこの身と世界の真実をたずねて社会の矛盾や悲しみに眼をつむることなく、同朋社会の実現に微力を尽くしたいと思えます。

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要のご縁の中で決意を表明します。

時に令和元年五月二十六日

松泉山願成寺住職釈尼妙真

敬つてもうす